

エディトリアル

東京ベイ・浦安市川医療センター 副管理者 木下順二

2014年2月、地域医療振興協会の地域医療型後期研修医(日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医の取得を目指している)とその修了医師・指導医をメンバーとするメーリングリスト上では、「にきびの治療をどうしたらよいか」「頑固な耳垢を安全に取るための工夫」などの話題で盛り上がっていた。今回の特集企画はこのことがきっかけとなった。

一般にへき地や離島の診療所での診療においては、専門医へのアクセスが容易ではないことが多い。日常的に遭遇する疾患では各科専門医に気軽に紹介しにくいことも多いし、また患者さんも遠方への通院を嫌い、地元の診療所での治療を希望し来院することがしばしばある。患者さんの抱えるあらゆる問題に対応することはプライマリ・ケアを志す医師の本分である。希望に応じてできる範囲で治療してみようという気持ちと、そのことで結果的に合併症を引き起こしたり、診断が遅れたりしてはならないという気持ちの間で、ジレンマに陥ることも多い。

そのような場面も想定して、初期・後期研修中に幅広い科の研修を受けてきた医師であっても、独り立ちした後に再研修を受ける機会はなかなかないので、知識や技術のブラッシュアップは大きな課題となる。

今回の特集企画にあたり、上記のメーリングリストなどを通じて、日常診療で遭遇する耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科領域の問題について、対処に困ったり迷ったりした経験について事例を収集した。それをもとに、へき地・離島の診療所を念頭に、限られたリソースを用いて、診療所医師が自ら可能なマネジメントについて、各科の専門医に執筆をお願いした。著者は全て自治医大の卒業生であり、地域の現場も経験しよく知っている方々である。

今回のような記事は、「正確な情報」を記す以上に極めて難しい課題であり、著者の先生方は突然の依頼に戸惑い、執筆にあたっても相当な苦勞をされたものと思う。へき地・離島で活躍する医師たちへの愛情に満ちた各記事を、明日からの診療の指針として役立てていきたい。